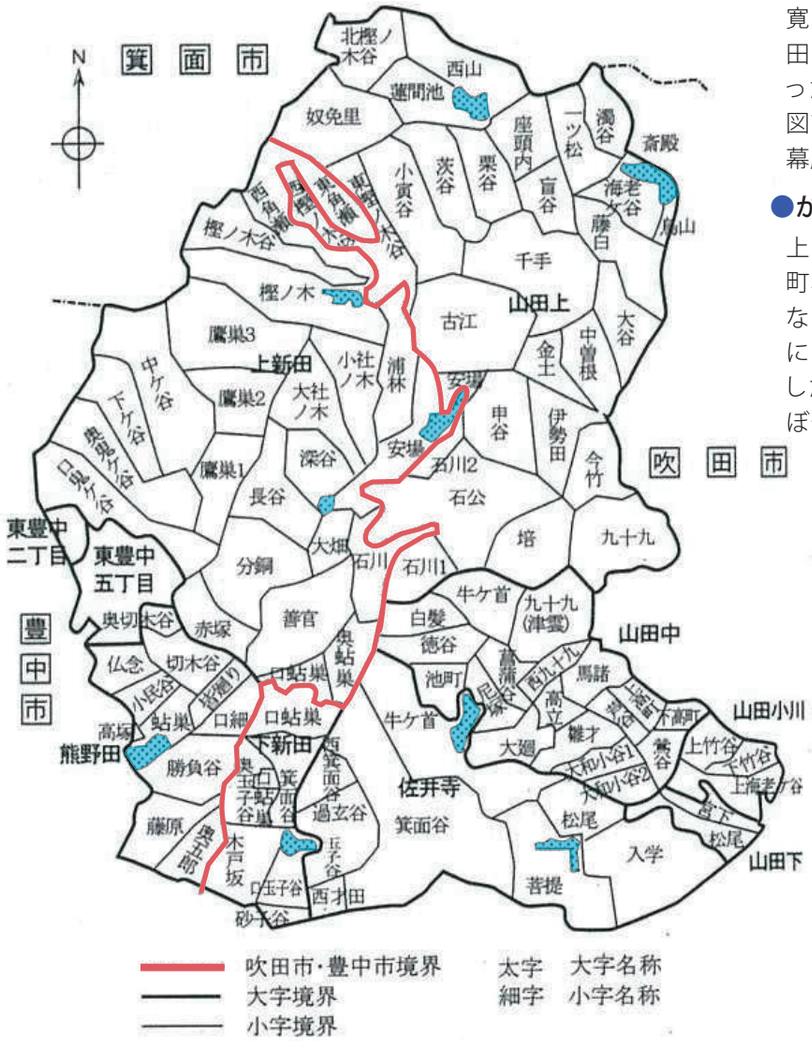
歴史を辿る

①上新田と千里ニュータウン

図－1　千里丘陵住宅地区における旧行政区画
昭和33年（1958年）



上新田の歴史あらまし

●新田村の誕生

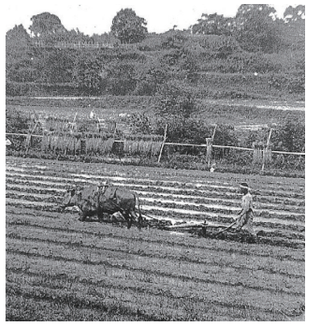
寛永3年（1626年）に山田村（現吹田市）の村民3人が新田開発を行ったのが新田村の始まりです。古図では山田新田と称されています。幕府の直轄領でした。

●かつての上新田の範囲

上新田の範囲は現在の新千里東町、西町、南町、北町におよぶ広大なものでした。ニュータウン開発前には大部分が樹林に覆われていましたが、比較的平坦な谷筋で田んぼや畑が耕されていました。

●豊中市上新田

昭和 28 年（1953 年）大阪府三島郡新田村の廃村により上新田地区は豊中市に、下新田地区（現春日町）は吹田市に編入されました。



写真－12
昭和10年（1935年）頃の上新田
（現在の新千里東町辺り）

千里丘陵と上新田の略年表

◇古墳時代後期（約1400年前）
- 千里丘陵では登り窯による須恵器（祭祀や古墳の副葬品など）の生産が盛んであった。

◇平安時代（約1200～800年前）
- 丘陵は皇族の狩り場にもなっていた。
- 丘陵の西側一帯（現在の豊中市域）は遠寝山（とねやま）といわれ、古来から景色が良く歌にも詠まれた。

◇江戸時代初期
- 寛永3年（1626年）新田開発によって幕府直轄領の新田村が誕生
- 寛永5年（1628年）安場池、樫ノ木池の築造（水源となる重要な溜池で、「殿池」と呼ばれた。）
- 寛永10年（1633年）上新田と下新田に分割
- 貞享3年（1686年）天神社建立

◇昭和時代
- 昭和28年（1953年）新田村は廃村になり、上新田は豊中市に、下新田（現春日町）は吹田市に編入
- 昭和33年（1958年）千里ニュータウン開発決定

千里ニュータウンの母なる村・上新田

●千里ニュータウン区域内にあった上新田集落

ニュータウンの区域内には上新田の他にも、下新田や熊野田、佐井寺、山田などの村々が土地を所有していました。しかし、ニュータウン予定地の内側に集落があったのは上新田だけでした。上新田は千里ニュータウンの母なる村です。

●継承された上新田の集落

長い歴史のある集落部分は継承することが望ましいということで、現在の上新田の範囲はニュータウンとしての開発を行わない区域とされました。現在も伝統的な家並みや寺社のある風景が受け継がれています。

写真－13　昭和26年（1951年）の上新田の集落

受け継がれている旧上新田

●ため池

千里丘陵には大きな川がないので、農業用水を確保するために多くのため池が築造され、田んぼや畑を潤していました。現在、公園の池の多くは、江戸時代以来のため池を活かしたものです。千里東町公園の長谷池では毎年、新千里東町地域自治協議会が主催して住民参加で池の清掃を行っています。

住民参加による千里東町公園長谷池の清掃活動

●竹林・アカマツ林

丘陵の斜面地では水の確保が難しかったため、竹を植えてタケノコを栽培し、大阪市内などに出荷していました。また、千里丘陵はアカマツ林が多く、アカマツは生活に欠かせない大切な燃料(薪)として利用されていました。毎年秋にはマツタケ狩りが行われ、食べきれないほどのマツタケが採れたそうです。現在、公園や千里緑地には竹林やアカマツ林が受け継がれており、かつての千里丘陵の面影を伝えています。「千里竹の会」や「赤松を守る会」などの市民団体が竹林やアカマツ林の整備活動を行っています。

「千里竹の会」の竹林整備活動　（千里東町公園と桃山台の千里緑地）

「赤松を守る会」が整備活動を行っている新千里北町樫ノ木公園のアカマツ林

●谷筋（丘と丘の間の帯状の谷間）

千里丘陵は、大部分が標高50~70mの丘陵地で、その間に複雑に入り組んだ谷筋がいくつもありました。 谷筋の比較的平らな部分に田畑がつくられていました。千里ニュータウンの開発に当たっては、おおむね谷筋の部分に道路を通し、丘の部分に住宅地を計画しました。丘と丘とは歩道橋で結ばれました。歩道橋の上からまちを眺めると、道路がかつて谷筋であったことが良く分かります。

谷筋に設けられた新千里北町の道路
（正面の歩道橋はすずかけ橋）